

平成30年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成31年 4月 3日
研究・研修課題名	公益財団法人 日本腎臓財団 透析療法従事職員研修
研究・研修組織名(所属)	血液浄化治療部
研究・研修責任者名(所属)	椎名浩昭
共同研究・研修実施者名(所属)	中田早人、古谷昭人

区分	<input type="checkbox"/> 学会発表、 <input type="checkbox"/> 論文掲載、 <input type="checkbox"/> 資格取得、 <input type="checkbox"/> 認定更新、 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得、 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(特になし)
該当者名(所属)	中田 早人、古谷 昭人
学会名(会期・場所、認定名等)	公益財団法人 日本腎臓財団 透析療法従事職員研修(7/7~7/8 大宮ソニックシティ)
演題名・認証交付先等	
取得日・認定期間等	

目的及び方法、成果の内容

① 目的

現在透析患者数は年々増え続け、約 32 万人となっている。また高齢化に伴い、慢性維持透析ならびに新規透析導入の患者さんも高齢化が進み、透析医療現場では様々な問題を抱えることが多くなっておりま。これらの精神的・肉体的負担が多い患者さんに対処していくには、透析医療に携わるそれぞれの部門の従事者が緊密に連絡を取り合い、総合医療の一端として各々活動することが望まれています。

また、透析医療従事者として自施設での血液透析に関する知識のみならず、腹膜透析に関する知識、慢性腎臓病(CKD)の進展抑制に関する知識、さらには、もう一方の腎不全治療である移植医療に関する知識も、医療現場では必要とされる。

本研修では、前回の研修会後の受講生アンケート調査結果などを参考に関心の高い話題に加え、最新の情報も学ぶことができるため、知識の習得、向上を図ることができる

② 方法

公益財団法人 日本腎臓財団 透析療法従事職員研修(7/7~7/8 大宮ソニックシティ)を受講する

③ 成果

本研修では、血液透析の現状から基礎、応用まで幅広く講習をうけることができた。

知識の習得、裏付けができたことにより、治療に対する意識が変わり、臨床工学技士の目線から、医師、看護師を交えたカンファレンス等でも発言や意見が増え、ディスカッションが活発化している。

高齢患者に対する透析も条件の検討を臨床工学技士で行うようになり。また、高齢患者に対し、使用する透析用の膜も再検討し、より良い透析膜に変更した。

このことにより、患者さんにより良い透析ができ、医療の質が上がったと考えられる。

災害対策についても講習があり、透析室での災害に対する備えや知識の再確認できた。

現在、透析室のスタッフには透析中の災害を経験した人はいないため、今回の研修を活かし、災害発生から避難までのシミュレーションをスタッフ一同で行った。それにより、新たな災害対策のマニュアル作成ができ、透析室スタッフの災害に対する意識の統一を行うことができた。